

	経営史 Business History	中瀬 哲史
講義・前期・2単位	対象年次: 全年次	

【授業の目標及びテーマ】

企業経営を歴史的に分析して捉えるとともに、その方法を実際の事例に適用した授業をします。その授業を通じて受講生に経営史的な観点を体験していただき、参考にしていただきます。

【授業の概要】

ここ数年、日本の景気は上向いており、学生の新卒採用も悪くはないといわれています。しかし、いまだ、安心のできる状態ともいえません。他方で、中国やインドといった新興国の経済的な落ち込みを予告する言説も見受けられますが、進展しているのも間違いありません。そうした近年のアジア地域の経済発展をこの地域の経済「再興」と捉える歴史学の研究が出てきています。

以上のような情勢にあって私たちはどのように現在を捉えて前に進んでいけばいいのでしょうか。ここで、歴史的な思考が求められます。というのは、これまでの企業経営はどのように歩んできたのかを踏まえると、これからどのような方向に進んでいくのか、行けばいいのかの道筋がみえてくると考えられるからです。「動かない」過去の事実を、現在の問題意識でもって分析し、今後の歩みを検討する際の材料とするのです。本授業では、企業経営の歴史を主軸に検討していきます。

そこで、まず、企業経営の歴史である経営史にはどのような課題があるのかを検討します。次に、産業革命期から現在に至るまでの、とくに生産システムの歴史的な流れを検討します。また、とくに関西地方のビジネスについて、具体的なあり方を取り上げて考えたいと思います。その際、実際に企業経営に携わっていらっしゃる方のお話を聞いていただく機会も設けたいと思います。これからの企業経営のあり方を一緒に考えていきましょう。

【授業計画】

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 第1回: 本講義のガイダンス | 第9回: 日本の柔軟システム構築の意義② |
| 第2回: 経営史学の課題 | 第10回: 中国等新興国の生産システムの意義① |
| 第3回: 経営史の哲学 | 第11回: 中国等新興国の生産システムの意義② |
| 第4回: イギリス産業革命の意義① | 第12回: 関西企業の経営行動の歴史的分析 |
| 第5回: イギリス産業革命の意義② | 第13回: これからの生産システムのあり方について |
| 第6回: アメリカ大量生産大量体制構築の意義① | 第14回: レポート発表会 |
| 第7回: アメリカ大量生産大量体制構築の意義② | 第15回: 学期末試験 |
| 第8回: 日本の柔軟システム構築の意義① | |

【評価方法・評価基準】

出席点、レポート点、試験等総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】

授業開始後、テキストを指定します。今しばらくお待ちください。なお、サブテキストを以下に提示します。
 サブテキスト: E・H・カー(1962)『歴史とは何か』岩波新書、溪内謙(1995)『現代史を学ぶ』岩波新書、大河内暁男(1991)『経営史講義』東京大学出版会、中瀬哲史(2005)『電気事業経営史』日本経済評論社、2、宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎(1999)『日本経営史』有斐閣、宮本又郎・岡部桂史・平野恭平(2014)『1からの経営史』碩学舎など。

【受講生へのコメント】

特にありません。